

一般質問は、議員が市政全般について、自由なテーマで市長に質問するもので、市民の声を市政に届け、議員それぞれが政策提言を行います。6月定例会では、8日、11日、12日の3日間、18人の議員が一般質問を行いました。ここでは、質問と答弁の中から一部を要約してご紹介します。



狭山市を担う人材育成と
生命を守る危機管理
太田 博 希 議員
(志 政 会)

◆**さやまっ子を育てるための教育予算の充実**
①財政状況から今後の教育費の展望について ②子育て世代の人口を増加させる政策 ③財政状況に影響されない子ども基金の創設



教育の果たす役割は大きく、子育て世代が魅力を感じられるような教育環境の整備に向け、必要な取組みを行っていくことも重要であり教育費の充実に努めていく。

◆**住民の生命と生活を守る防災・減災・危機管理**
①首都圏直下型地震などへの備えはどうか ②今夏の狭山市総合防災訓練の概要は

◆**市民と行政の協働を推進するためのガイドライン**を作成しており、協働事業の支援策として協働事業推進基金(仮称)を設定する予定で、まずはこの基金を教育分野でも活用していきたい。



国民保護の視点も取り入れた
危機管理体制を
矢 馳 一 郎 議員
(無 所 属)

◆**自然災害への対応と国民保護事案(テロリズムや武力攻撃)への対応は、避難や救援などの被害管理でなすべきことはほぼ変わらず、他方国民保護には、市町村を越えた避難などの自然災害対応で見逃されがちな視点も含まれる。東日本大震災や福島原子力発電所事故などからの教訓が得られる今こそ、地域防災計画とあわせて、国民保護計画の内容や体制を確認し、今後の包括的な危機管理体制の確立に繋げていくことが重要と思われる。**

◆**自然災害への対応と国民保護事案(テロリズムや武力攻撃)への対応は、避難や救援などの被害管理でなすべきことはほぼ変わらず、他方国民保護には、市町村を越えた避難などの自然災害対応で見逃されがちな視点も含まれる。東日本大震災や福島原子力発電所事故などからの教訓が得られる今こそ、地域防災計画とあわせて、国民保護計画の内容や体制を確認し、今後の包括的な危機管理体制の確立に繋げていくことが重要と思われる。**



近隣市の国民保護訓練の様子



健康福祉 /
市民生活の充実について
加賀谷 勉 議員
(公 明 党)

◆**孤立死の防止対策**
①孤立死を防ぐ「安心生活創造事業」の取り組みは ②障がいのある方のある家族を支える取り組みは ③福祉担当部局と関係団体との連携強化は ④個人情報保護の適用外になることへの理解促進は ⑤「地域力」向上への取り組みは

◆**防災対策の充実**
①狭山市の学校施設の非構造部材の耐震化の実状をどのように認識しているか ②学校施設の非構造部材の計画的・実効的な点検・対策の進め方は ③学校施設の非構造部材の点検と、対策を円滑に進めるための関係者・機関との連携体制づくりは

◆**企業立地の整備状況**
狭山市は、大型工業団地の発展とともに人口も急増し、県内でも有数の首都近郊住宅・工業都市である。しかし、近年の企業誘致数は21年度3件、22年度0件、23・24年度が各1件である。地域経済の発展と雇用拡大を推進するため企業立地を積極的に取り組まなければならないと考えるが、現在の誘致活動・企業訪問・インフラ整備を伺います。



積極的な企業誘致を！
生活環境の保護
新 良 守 克 議員
(志 政 会)

◆**環境経済部長** 工業会、首都圏産業連絡協議会などから情報収集している。また、既存企業や誘致した企業に、企業立地奨励金事業で支援している。

◆**環境経済部長** ポイ捨ての防止に関する条例などのキャンペーンを定期的に実施し、意識啓発を行っているが、環境美化活動を情報発信するなどモラルの向上を図っていく。犬の飼育のマナーは、狂犬病予防集合注射での啓発や犬の飼い方教室で行っている。飼育主のモラル向上を図る最適な機会と考え、今後も引き続き行っていく。



犬のフンは持ち帰ろう



災害廃棄物の
広域処理の検討状況は
笹 本 英 輔 議員
(無 所 属)

◆**現在、市で回収される一般ごみの焼却灰で計測される放射性物質などの数値の推移は、国の定める安全基準値に対して安全な数値か。**

◆**環境経済部長** 焼却灰の基準値は8千ベクレル以下であるが、市の数値は、原発事故後、焼却灰が340ベクレル、飛灰が3300ベクレルであった。現在はそれぞれ3分の1以下となっている。空間放射線量は0.06から0.1マイクロシーベルトで、基準値の0.23マイクロシーベルトを下回っており、安全であると認識している。

◆**環境経済部長** 私の提案を含めた意見は10通で、反対は4通、賛成は6通。震災から1年が経過した後には賛成意見が集中している。

◆**環境経済部長** 日々情報が錯綜しており、これらを分析、整理している。今後方向性が示されれば、市民に不安を抱かせないよう情報を発信していく。



入間基地を含む
狭山の防災対策
大 島 政 教 議員
(無 所 属)

◆**長周期地震動による高層ビルの揺れが、都心では東日本大震災の2倍から3倍になることが、東京総合防災情報研究センターの研究で分かったと報道されている。狭山の防災対策は、東京、所沢の高層ビルなども視野に入れた対策が必要ではないか。**

◆**市民部長** ①小中学校など30カ所にアルファーマカ乾パン、クラッカーを3日分備蓄している。防災計画では、避難者9千人と災害救助従事者1200人が1日3食で3日間分と帰宅困難者2500人の1食分を合計した9万4300食が目標保管量で、スーパーマーケットなどの協定による流通備蓄の活用も含まれている。②総合防災訓練では、自治会が主体となり訓練を行うものとしている。③引き続き避難所と位置づけている。④入間小学校を避難所としていた地域は自治会会議などで協議し、入間中と入間野中に決定している。⑤市長が県知事に、県知事は災害の状況で自衛隊に災害派遣要請することとなっており、入間基地の救援隊が本市に派遣されることも考えられる。⑥県・国と関係機関と連携した迅速的確な市民の避難、支援および救援体制を実施していく。

一 般 質 問

そこが聞きたい!!